知的障がい者施設のための
ADリスクマネジメントNews
2020. 11
No.36

誤えん発生時に座位のまま背部叩打法を施行したら

－正し背部叩打法の方法とは？－

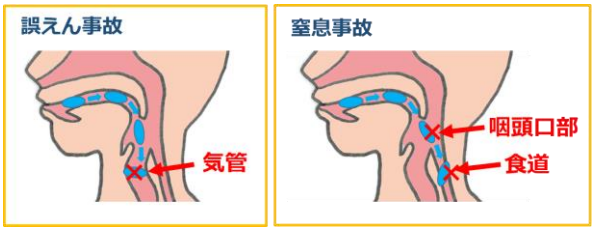
■どのような安全確認が必要か？

ある知的障がい者デイサービスで、昼食時に誤えん事故が発生しました。摂食嚥下機能に問題の無い利用者Mさんの食事を支援員が近くで見守っていた時、Mさんが急にムセ始めたので支援員は座位のまま背中を強くたたきました。しかし、ムセは収まらずひどくなった後、「ヒーッ」と言う声を出してムセが止まりました。慌てた介護職員は、Mさんを前かがみの姿勢にしたまま、研修で習った通りに背部叩打法を始めました。肩甲骨の真ん中の辺りを、手首の根本で強くたたき続けましたが、Mさんはぐったりしてきました。大声で看護師を呼ぶと駆けつけてきた看護師は、「それじゃひどくなるから止めなさい」と制してすぐに吸引を施行しました。吸引で少量の食べ物が引けましたが改善せず、看護師はすぐに救急搬送しましたが、搬送先の病院でMさんは亡くなってしまいました。

誤えん事故の発生形態は２種類

■「誤えん」と「窒息」

誤えん事故は食べ物が喉に詰まって呼吸が止まる事故であり、すぐに対処して喉に詰まった食べ物を除去しなければなりません。しかし、誤えん事故は喉のどこに食べ物が詰まって起こるのでしょうか？実は私たちが誤えん事故と呼んでいる事故は、正確には「誤えん」「窒息」という2種類の事故であり、その発生形態は異なるのです。



右の図のように誤えんとは気管に異物が詰まって呼吸が止まることであり、窒息とは咽頭口部や食道に異物が詰まって喉頭蓋や気管を圧迫することで呼吸が止まることなのです。

■Mさんの事故は誤えん

Mさんに吸引を施行した時、気管から食べ物が引けたということは、Mさんは気管に食べ物が詰まって呼吸が止まっている状態で、誤えん事故を起こしていました。気管に食べ物が詰まった状態で、座位のまま背部叩打法を施行すると、気管内に詰まった食べ物は肺に向かって落ちていきます。つまり、誤えんを悪化させたことになるのです。

食道に詰まった窒息状態であれば食べ物を胃に送ることができますが、気管に詰まった時は、座位のままで背部叩打法を施行してはいけないのです。そのため、看護師は「それじゃひどくなるから止めなさい」と制したのです。

通常、誤えん事故が発生した場合、気管に詰まっているのか、食道に詰まっているのかをすぐに判別できませんから、背中より口を下の姿勢にして背部叩打法を施行すれば良いのです。苦しんでいる座位の利用者を立たせて前かがみ姿勢を取らせるのは難しいので、二人一組で対応すると良いでしょう。一人は背後から腰に手をまわして持ち上げるようにして、上に引き上げます。腰を持ち上げられると上半身が前に傾斜しますから、もう一人が背中を叩打すれば良いのです。

発行責任者
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部　市場開発室
担当：堀江・佐伯　　TEL　03-5789-6456

担当課・支社　代理店
株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSﾋﾞﾙ
電話03-5466-0881　FAX03-5466-0882